

資料 1 1

昨年の東日本台風を踏まえた対応
(特別警報変更後の情報提供等)

(1) 大雨特別警報の解除後の洪水に対する注意喚起

【課題】

- ・東日本台風では、大雨特別警報の解除が安心情報と誤解された可能性があった。
- ・解除後の大河川の洪水に対する警戒の呼びかけが十分でなかった可能性があった。
- ・伝え方についても、「解除」と表現したことから警報が継続していることが伝わらなかった可能性があった。

〔有識者等からの助言〕

- ・「大雨特別警報」は、すでに広く認知されており、名称や判断基準などを変える必要はないと考えるが、河川の「氾濫危険情報」は知名度が低く、雨に比べると洪水の危険度が十分に認識されていないため、わかりやすい呼びかけ方を考えるべき。
- ・災害時に発表される情報の種類が多すぎるとい声があり、新たな情報を増やすと余計に混乱が生ずる恐れがある。まずは従来からの洪水予報の周知や強調に力を入れることが重要である。
- ・伝え方検討会では、大河川では雨の降る場所と洪水が発生する場所が異なる。大雨特別警報の解除後も洪水に対する警戒を呼びかけることが必要であり、大雨特別警報解除の直前に記者会見を開催し、その後の大河川の増水の見込みをしっかりと伝えるべきとの意見があった。

【改善策】

- ・今後の水位上昇の見込みなどの「河川氾濫に関する情報」を発表
大雨特別警報の解除後の氾濫への警戒を促すため、大雨特別警報の解除を警報への切替と表現するとともに、警報への切替に合わせて、今後の水位上昇の見込みなどの「河川氾濫に関する情報」を発表する。これは、現在の氾濫の危険性や今後の水位の見込み、大河川において最高水位に達する時間帯などを指定河川洪水予報により周知することにより、河川氾濫への注意喚起を図るものである。
＜2020年出水期から実施＞
- ・メディア等を通じた住民への適切な注意喚起
メディア等を通じた住民への適切な注意喚起を図るため、予め本省庁等の合同記者会見等による周知を図るとともに、SNSや府県気象情報、ホットライン・JETTによる解説等、あらゆる手段で注意喚起を実施する。
＜2020年出水期から順次実施＞
- ・どの警戒レベルに相当する状況か分かりやすく解説
「引き続き、避難が必要とされる警戒レベル4相当が継続。なお、特別警報は警報に切り替え…」と伝えるなど、どの警戒レベルに相当する状況か分かりやすく解説する。
＜2020年出水期から順次実施＞

課題

- 大雨特別警報の「解除」を安心情報と捉えた住民が自宅に戻った後に、上流部で降った雨が下流部に流下し、時間がたってから氾濫が発生。大雨の後に時間差で発生する氾濫への注意喚起が必要

改善策

- 大雨特別警報解除後の氾濫への警戒を促すため、大雨特別警報の解除を警報への切替と表現するとともに、警報への切替に合わせて、今後の水位上昇の見込みなどの「河川氾濫に関する情報」を発表
- メディア等を通じて住民への適切な注意喚起を図るため、予め本省庁等の合同記者会見等による周知を図るとともに、SNSや気象情報、ホットライン、JETTによる解説等、あらゆる手段で注意喚起を実施
- 「引き続き、避難が必要とされる警戒レベル4相当が継続。なお、特別警報は警報に切り替え」と伝えるなど、どの警戒レベルに相当する状況か分かりやすく解説

大雨特別警報の切替に合わせて「河川氾濫に関する情報」を発表

今後の水位上昇の見込みなどの「河川氾濫に関する情報」を発表し、引き続き警戒が必要であること、大河川においてはこれから危険が高まることを注意喚起

国土交通省 常陸河川国道事務所 気象庁 水戸地方気象台

「大雨は峠を越えたが、河川は氾濫のおそれ」

■ 久慈川

(氾濫危険：警戒レベル4相当)

富岡観測所(常陸大宮市)では、当分の間、氾濫危険水位を超える水位が続く見込みであり、氾濫のおそれあり。

榊橋観測所(日立市)では、避難判断水位を超過しており、今後、氾濫危険水位に到達する見込み。

基準観測所	水位状況	今後の見込み
富岡 (常陸大宮市)	氾濫危険水位超過 (レベル4相当)	水位上昇中
榊橋 (日立市)	避難判断水位超過 (レベル3相当)	水位上昇中。氾濫危険水位 到達見込み

メディア等を通じて住民へ適切に注意喚起

メディア等を通じて住民への適切な注意喚起を図るため、予め本省庁等の合同記者会見等による周知を図るとともに、SNSや気象情報等あらゆる手段で注意喚起を実施

